

「男女共同参画社会に向けて---日本数学会の取り組み」

昨年7月に新聞等で報じられましたが、平成11年の「男女共同参画社会基本法」の成立、及びその後の閣議決定を受けて、理系の学術団体が表題の問題に積極的に関与するために、連絡協議会を設ける動きがありました。

会員数2万人以上の学会（日本化学会、日本物理学会、応用物理学会）を含む17団体が正式参加、17団体がオブザーバー参加して、昨年10月に「男女共同参画学協会連絡運営委員会」が発足し、日本数学会も正式メンバーとして最初より参加することになりました。この「連絡会」は、各学会での男女共同参画に関する取り組みを推進する母体となるとともに、各研究の場における環境設備の向上、学際的ネットワークの構築等を推し進めていくことを目指しています。

そして、その具体的な活動の1つとして、今年7月頃に参加団体すべてに大規模アンケートを実施する予定です。現状を的確に把握して問題点を抽出し、今後の改善に対する実効的な解決策を模索するためのものです。その際には、会員の方々のご協力をよろしくお願いいたします。

日本数学会は、残念ながら女性会員が極めて少ない（会員総数5000名超に対して、女性会員は推定250～310名、5ないし6%）という現状にあります。そのせいか、今までこの問題に対する関心は、必ずしも高かったとは言えないと思います。そこで理事会では、取敢えずこの問題に関するワーキンググループを発足させ、会員の関心呼び起こすとともに、ご意見、ご要望をお聞きし、ご協力をお願いする事にしました。

男女共同参画に向けての取り組みは、さまざまな視点から考えていく必要があると思われれます。長期的に考えるべきこと、短時間で処理できるもの、グローバルに考えなくてはいけないこと、ローカルですむこと等々いろいろあります。いずれの場合も、会員の方たちの幅広い支持がなければ出来ないことであるとともに、支持を得られるようなものであるべきだと思われれます。そこで、当面の具体的な活動として、以下の2つを実施することに致しました。

1) 2003年春の年会において、「保育室設置」に関するアンケート実施。乳幼児などの小さな子どもを抱えている会員が、学術集会に参加する際の支援策としての「保育室設置」ですが、これは女性会員だけでなく、配偶者が働いている男性会員にとっても、必要なものであると思われれます。そこで、どのようなニーズが、どの程度あるかを調べるために、アンケートを実施致します。今まで積極的に取り組んできた日本天文学会のような先進的なところもありますが、会員数の多い規模の大きな学会や女性会員の多い学

会でも、この2・3年にこの種のサービスを始めたところが多いようです。乳幼児を、たとえ短時間であっても他人に預けることに対する事故等への不安はあると思いますが、実際に設置している学会には詳細なマニュアルがあり、もしも数学会で実施する場合には、それらのノウハウを借りられるものと思います。

このアンケートは、学会期間中にアンケート用紙を配布し回収する形式と、日本数学会のホームページから電子メールを通して回答して頂く形式をとります。ホームページには、アンケートを3月半ば以降に載せる予定です。

2) 同じく年会4日目に「男女共同参画に関する懇談会」開催。

この種の懇談会はこれまでになく、今回が初めてなので、大きなことから小さな事まで、いろいろなことを話し合い、議論する場に出来たらと思っています。女性会員はもちろんのこと、研究者として歩み始めたばかりの若い会員、男性会員にもふるってご参加頂きたいと思います。

以上の事柄に関して、学会員の皆様のご協力を宜しくお願いいたします。また、ご意見・ご要望がありましたら、現在のこの問題のワーキンググループである

理事長 楠岡成雄

担当理事 織田孝幸 (takayuki@ms.u-tokyo.ac.jp)

担当評議委員 太田 香 (ota@tsuda.ac.jp)

のいずれかまでお願いいたします。